

変化のステージモデルの口腔保健分野応用の可能性—第1報— ステージ別感情の表出傾向を探る—

○福原早紀^{1,2)}, 小石 剛²⁾, 田村達二郎²⁾, 大橋正和²⁾, 津田 真²⁾, 福原 稔^{1,2)}, 文元基宝²⁾
¹⁾フクハラ歯科医院, ²⁾関西ウェルビーイングクラブ

(索引用語: 変化のステージモデル, 感情, 半構造化インタビュー)

口腔衛生会誌 56 (4), 2006

目的:

口腔保健行動の変容に有効な感情に対するアプローチ方法について検討する目的で, 各ステージでの患者の感情の表出傾向を調査した。

方法:

平成 18 年 3 月より 3 ヶ月間, 7 歯科医院の来院者 (20 歳以上) 175 名に調査した。変化のステージモデルの分類にそった質問票で調査し, 感情に対しては参考文献 2) の医療面接「半構造化インタビュー」を用いた。抽出された感情は, 参考文献 1) の感情ガイドライン表の基本感情「喜び—目指すものが叶いそうな時の感情」「不安—目指すものに見通しがつかない時の感情」「怒り—当然こうあるべきという思いがそうならない時の感情」「悲しさ—目指すものが叶いそうにない時のあきらめの感情」と感情を「聞けていない」に分類し, 集計した。

結果・考察:

ステージ分類した結果, 無関心期 9.1% (16 名), 関心期 44.6% (78 名), 準備期 33.0% (58 名) 実行期 6.9% (12 名), 維持期 6.3% (11 名) であった。ステージの感情の表出傾向は, 表に示す。ステージ別の感情の分析では, 「喜び」は無関心期から維持期になるにつれて表出する傾向が見られた。「不安」は, どのステージにおいてもあり, 特に維持期に多く出る傾向があった。「怒り」は, 実行期が一番多く表出する傾向が見られた。「悲しさ」は, 無関心期で 31.3% と多く表出するが関心期・準備期・実行期・維持期になるにつれて少なくなる傾向が見られた。「聞けていない」は, 無関心期から維持期になるにつれて少なくなる傾向が見られた。この結果からステージ別に感情の表出傾向を考察してみると, 無関心期は目指すものや期待もなくあきらめの感情(悲しさ 31.3%)を持つことが示された。関心期は, 関心はあるが見通しが立たないため, あきらめていると考えられる。準備期は, 目指すものが叶いそうにないと感じる(怒り 13.8%), 見通しが立たない(不安

60.3%), ときにはあきらめたりする(悲しさ 12.1%) 3つの感情が入り混じった状態と考えられる。実行期は, 目指すものが叶いそう(喜び 8.3%) と思い, 一方で得られそうもない(怒り 16.7%) と感じている。予防に取り組んで 6 ヶ月以内であるために患者自身が期待している結果がまだ得られていないからと考えられる。維持期は, 目指すものが叶いそう(喜び 9.1%) と思っている。しかし見通しが立たない(不安 81.8%) と感じ, 時にはあきらめたりもしている。ここで実行期と明らかに違うことは, 「怒り」の感情がでていない。これは 6 ヶ月以上予防に取り組んだ中で, 目指すものが得られた経験からと考えられる。

参考文献:

- 1) 宗像常次ほか: ヘルスカウンセリングテキスト Volume 1 ヘルスカウンセリングセンターインターナショナル 2 版 2001 年 p 67
- 2) 文元基宝ほか: 患者の内なるニーズに迫る 歯科衛生士 volume 29 NO 4 p 13~31 2005 年
- 3) 福原 稔ほか: 口腔衛生会誌 55: 413, 2005.

